連載 観光まちづくり最前線 No.31 地域を歩くレポート

デジタルスタンプラリーによる地方とバスタ新宿の結びつけプロジェクト ーばす旅はこうでなくっちゃ!!……バスタ新宿×地方を元気に

帝京大学　経済学部　観光経営学科　大下ゼミ

2016(平成28)年４月に開業した「バスタ新宿」は、開業６年目の2022年の11月に5000万人の利用者を達成しました。今回は今後の高速バスの観光利用増が期待される中での地域回遊イベントを紹介します。

■「バスタプロジェクト」を注目してもらうために

運行路線によって特徴は見られるものの、若者・女性・訪日外国人、ビジネス客、通勤者などの利用が多いことから、若者や女性利用者、インバウンド観光復活後の訪日外国人観光客の需要を喚起し、既存の高速バス路線を活用した地方の観光地の活性化が期待されています。

また、国土交通省では、バスタ新宿をモデルとし、品川駅西口、札幌駅、神戸三宮駅など、交通ターミナル整備事業が展開されています。2021(令和３)年４月には『交通拠点の機能強化に関する計画ガイドライン』が策定され、「全国バスタ会議」が開催されるなど、バスタプロジェクト展開への期待が高まってきています。そのような中、高速バス利用が多い若者の需要を生み出すため、「新宿－松本便」を対象に2023年２月18日から３月11日までの約３週間、地域回遊型のイベントを開催することとなりました。

バスタプロジェクトが
記載されているガイドライン

■ ばす旅はこうでなくっちゃ!!ーバスタカードの製作と配付秘話

若者に注目してもらうには、若者が楽しいと思える企画がマスト。コロナ感染症の拡大でリモート環境に慣れたことも幸いし、立地的に離れた２つの大学……理系(東京理科大理工学部)と文系(帝京大学経済学部)の異色の研究室コラボにより実践することとなりました。

プロジェクトの目的は２つ。まず、高速バスターミナルの役割や特徴を広報することを第一の目的としました。そのためのツールとして、バスターミナルカード３種類と運行しているバスカード２種類の５種類のカードを製作、バスタプロジェクトの概要も紹介したイベントパンフレットの中に見えないようにカードを入れて、バスタ新宿と松本バスターミナルで配付しました。

何故、バスタカードにしたのか。ダムカードやマンホールカード等と同様に収集癖を刺激しようとの狙いです。10%の確率でホログラム加工した「通称キラキラカード」も作りました。これは子どもの時にカード収集に夢中になった男子学生の発案です。

イベントパンフと製作したカードの代表例。
きらきらカードは、レアカードとの位置づけです。
やっぱ、特別感は大事っすヨ!!

■ 高速バス着地の観光活性化への展開

第二の目的は、着地である松本観光での地域回遊を促すことです。そのために、バスタカードとあわせて松本観光カードを製作し、まちなかで配付しました。松本城や旧松本高等学校、松本市美術館等を訪問してイベントの協力をお願いし、表面には写真、裏面にはそれぞれの施設の所在地や施設情報を掲載することで、カードを入手した人が訪れたくなるように工夫をしました。こちらでももちろんキラキラカードを用意しました。

観光施設などにタッチパネルを設置し、スマホをつかったデジタルスタンプラリーで回遊したポイント数に応じて景品がゲットできます。特賞は松本市出身の草間彌生先生がデザインされたラッピング高速バスのカード、この世に５枚しか存在しない貴重なカードです。

今回のイベントでは、イベントパンフレットとそれぞれのカードは多くの方々に配布することができましたが、企画の参加者は合計で150人と、期待していた程、イベント自体は認知されませんでした。

今後は、季節の良い時期に企画を行い、より多くの方にご参加いただけるよう、広報活動や企画の認知について今回の反省をもとに、さらに発展した企画を行っていきたいです。(貫正樹)

イベント開始日にバスタ新宿で
学生主体の広報活動をしました

参考資料：交通拠点の機能強化に関する計画ガイドライン
https://www.mlit.go.jp/road/busterminal/pdf/s_01.pdf

(謝辞)本プロジェクトは、(一社)関東地域づくり協会の助成をいただき実施しました。